

主体的に道德性を高めようとする生徒の育成

～生徒が意欲的に考え議論する授業づくりをめざして～

山武市立成東東中学校

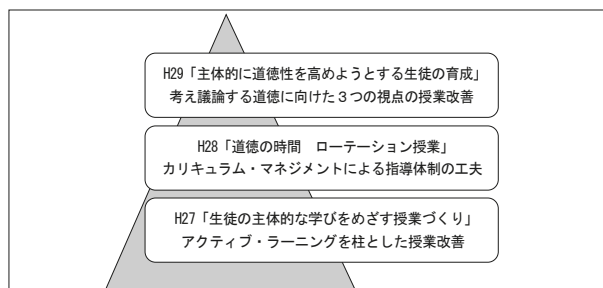
1 はじめに

全校生徒 273 名の規模である本校は、キャッチフレーズに「成東東中プライド」を掲げ、生徒の主体的な活動を推進している。平成 29 年度は県教育委員会から「特色ある道德教育推進校」の研究指定を受け、授業研究と職員研修に取り組んだ。本稿では、昨年度の研究概要として実践内容を柱に紹介する。

2 研究の概要

(1)研究主題の設定

本校では学校教育目標の具現化を目指し、平成 27 年度から「主体的に学ぶ生徒の育成」を各教科の中核研究テーマとしてきた。また、平成 28 年度からカリキュラム・マネジメントの視点で学年職員によるローテーション道德授業の実践研究を始めた。これらの研究から「生徒が道德の時間の大切さに気づくことができれば、自ら主体的に個性の伸長を図るのではないか。」という仮説が生まれた。



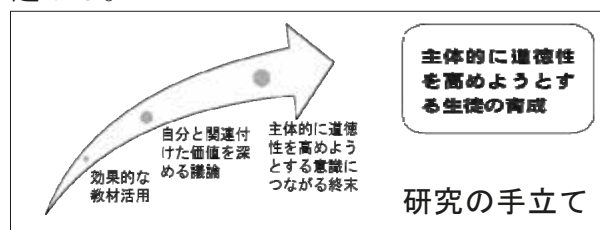
研究の系統

そこで注目したのが『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』の第4章・第3節「3 生徒が主体的に道德性を育むための指導」という項目である。これまで

本校が追求してきた授業改善のテーマに結びつけ、道德の時間における「生徒が主体的に参加できる授業」の在り方を明らかにしようと考えた。

(2)研究目標

「主体的に道德性を高めようとする生徒」が育成できる道德の授業の在り方を明らかにするため、「教材活用方法」「話し合わせ方」「終末の持ち方」を視点に授業実践を進める。



研究の手立て

(3)研究内容

- 主題に向けた研究（授業実践の研究）
- 全教育活動における道德教育
- 新しい資料を使った授業開発

3 研究の実践

(1)主題に向けた研究（授業実践の研究）

①「教材活用方法」

すべての学年で、読み物資料は登場人物への自我関与を意識した授業展開を試みた。1年生は、内容項目と関連する価値について質問したアンケート結果を導入場面で活用した。2年生は、生徒の思考する場面で登場人物の写真を掲示した。可視化することで、記憶の苦手な生徒でも発問に関連する場面状況をつかませ易くすることができた。3年生は、話し合いや思考する時間を確保するために、映像資料を授業前に見せた。

②「話し合わせ方」

話し合うルールとして、「相手の意見を共感的に受け止めて相槌を打つ」ことを指導した。ネームプレートや表示札を使ってそれぞれの立場を可視化し、意見交換を活性化させた。発問は、自分と価値を関連付けて考えさせたり、自分の未来像を語れたりする工夫をした。

③「終末の持ち方」

主体的に道德性を高めようとする意識につながるように終末の持ち方を工夫した。内面化した道德的価値を実践で活かすにはどうしたらよいかを終末で考えさせた。また、様々な気づきや意見を発表させ、多様な考え方に触れ、価値を広げる活動を行った。

(2)全教育活動における道德教育

①学年道德の実践

道德の時間では「自分の意見を相手に伝える技能」や「相手の意見を受け止める技能」が必要となる。この2つの技能を高めることを目的として、話し合いの練習を学年道德で取り組んだ。3年生は、一般的に短所と捉えられている性格を長所に捉え直すことができないか、リフレーミングの理論を用いて話し合い活動を行った。

②ローテーション授業の実践と検証

ローテーション授業の研究2年目となる平成29年度は、T Tローテーション授業の実践に取り組んだ。担任がT2として評価を意識した生徒の観察を担当する。副担任がT1としてローテーションで授業運営を担当する。授業経験の機会が少ない若手

教諭は、繰り返して実践できるローテーション授業の良さを実感していた。

(3)新しい資料を使った授業づくり研究

①『L G B Tを題材にした研修』

夏休み期間中に開催している地区の研修会で、L G B Tを題材にした資料で公正・公平について考える模擬授業を行った。

②漫画資料を活用した授業開発

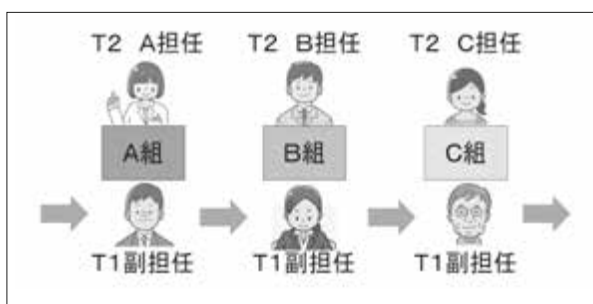
「文字による読解が苦手な生徒」や「映像では発問場面が思い出せない記憶が苦手な生徒」でも内容理解が図れる資料探しをした。そこで、漫画資料の『みんなで道トーク①』（監修：藤川大祐〔千葉大学教育学部教授〕）を活用した授業開発に挑戦した。生徒が主体的に授業に取り組めるよう、「教師の指示や発言は5分以内」「資料は漫画を使い、話し合いの内容をホワイトボードにまとめる」「議論する場面では新しいキーワードを活用する」ことを工夫の柱とした。「中学生らしい友情とはどうあるべきだろうか。」という発問を考える際、「同調圧力」というキーワードを使って議論させた。主体的に議論する生徒の姿が多く見られた。



漫画を活用した授業風景

4 研究のまとめ

全職員が連携し、授業研究や研修を重ねることで、生徒の学習意欲は高まった。調査した2年生（ $n = 93$ ）の86%が「道德の時間は役にたっている」と肯定し、88%が「これからも考え方や価値観を磨いていきたい」と回答した。一方、「自分の考えをまとめる活動」の項目では、生徒の苦手意識が表面化した。終末の持ち方については更なる工夫が必要である。これからは生徒と教師が楽しみながら道德性を養える授業開発に努めていきたい。



運営者（T1）と評価者（T2）の連動モデル図